

1. 6年間を貫く「小石川フィロソフィー」

第Ⅲ期 SSH 事業では、各学年に配置された小石川フィロソフィーを通して、全教員が課題研究に組織的に関わった。特に、3年「小石川フィロソフィーⅢ」、5年「小石川フィロソフィーⅤ」、6年「小石川フィロソフィーⅥ」では、担当するすべての教員による担当者会議を定期的に行い、指導についての情報交換を行った。各教員は、教科の枠を超えて課題研究の指導についての情報交換を行うことで、それぞれの授業改善につながった。

アンケート結果からも、特に理数系以外の教員の肯定的な回答が、大幅に増加したことが読み取れた(表1)。教員の意識の変容に伴い、課題研究への取組が本校教員の指導力向上に寄与したことがわかる(表2)。

表1 教員の意識の変容(肯定的な回答の割合)

質問	担当教科	第Ⅲ期1年度 平成29年度	第Ⅲ期4年度 令和2年度
SSH 事業により、 職員の意識が変わった	理・数・情 その他	79% 41%	82% 72%
SSH 事業は、 自身の担当教科に関係がある	理・数・情 その他	100% 44%	94% 80%
SSH 事業により、 学校や生徒が活性化した	理・数・情 その他	90% 57%	94% 82%
SSH 事業により、 その他の教育活動にも変化が見られた	理・数・情 その他	68% 44%	82% 77%

2. 指導と評価の一体化

課題研究の授業では、教師が目指すべき方向を生徒に示し、生徒は改善を繰り返しながら研究を進めることが求められる。教師と生徒が目指すべき方向を共有することで、指導の方向性が定まるとともに、生徒は目的に向かって意欲を高めることができる。

第Ⅲ期 SSH 事業では、すべての講座で共通して身につけさせたい力について評価規準表(表3)を作成し、担当教員及び、生徒の共通理解を図ることにした。生徒による自己評価の分析では、学年を経る毎に評価が上昇していることが読み取れるが、4段階での自己評価の低下が明らかになった(図1)。課題研究については、特に4年生の授業を改善することが、今後の課題である。

図1 生徒による自己評価の変容

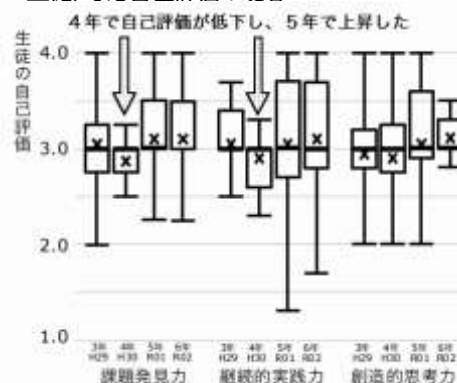


表2 教員アンケート「課題研究の指導を通して変わったこと」

教科	回答
国語	小石川フィロソフィーⅠを担当し、発想法や発表活動の方法を教えたことが、教科指導に役立った。
地歴	課題設定から課題解決までを生徒と一緒に取り組むうちに、自分にも課題解決能力がついた。新学習指導要領で求められる授業力の向上につながったと感じる。
数学	外部で発表する機会を通して、大学の先生方が高校生の研究に期待することがわかるようになった。
理科	教科の授業内に探究を取り入れ、小石川フィロソフィーにつながるスキルを普通の授業から構築できるよう工夫している。
理科	生徒に教えるよりも、生徒の力を引き出す授業が増えた。
芸術	生徒の興味関心を引き出し、研究テーマを設定させる指導法を学んだ。
英語	担当教科の枠にとらわれず、多面的な視野から問いを立てる力が身に付いた。
英語	生徒によっては、研究に打ち込んだり、使命感を感じたりすることによって自分の悩みやコンプレックスを乗り越えられていることがある。研究成果はもちろんのこと、根源的な教育の効果も感じて自分自身の大きな勉強になった。

表3 評価規準表

東京都立小石川中等教育学校

小石川フィロソフィー 振り返り

現在の自分を客観的に捉え、これからの目標をたてることを目的に振り返りを行います。これまでの活動を振り返って、回答してください。

記入例

■	■■■■■力	■■■■■	◎◎◎◎	○◎◎◎	△△△△
	■■■■■力	■■■■■	◎◎◎◎	○◎◎◎	△△△△
	■■■■■力	■■■■■	◎◎◎◎	○◎◎◎	△△△△

↑間に○をしても良い

身に付けさせたい力	評価材料	特に程度が高い	おおむね満足できる	評価できない	
探査発見力	主体的に学ぶ力	講座の取り組み 小フィロノート	目的意識を明確にもち、 <u>課題の枠外でも</u> 自主的に課題を解決しようとしている。	目的意識をもち、 <u>課題の枠外を十分に活用して</u> 、積極的に課題を解決しようとしている。	目的意識をもち、積極的に課題の解決に取り組んでいない。
	課題設定力	講座の取り組み 小フィロノート 中間・最終発表	先行研究や専門的な文献の調査、 <u>独自の予備調査</u> を行い、適切な研究テーマと仮説を設定している。	一般的な文献の調査や必要予備調査を行い、適切な研究テーマと仮説を設定している。	文献の調査や必要予備調査が不十分であり、自力で研究テーマと仮説を設定できていない。
継続の実践力	情報収集力	調査活動の様子 小フィロノート 中間・最終発表	課題の解決に向けて、 <u>合理的かつ独自の</u> 方法で調査活動を実施し、データを収集・整理している。	課題の解決に向けて、 <u>合理的な</u> 方法で調査活動を実施し、データを収集している。	課題の解決に向けて、適切な調査活動ができていない。
		講座の取り組み 小フィロノート	二つ一つの研究活動について、 <u>経緯や目的、内容を</u> 克明に記録している。	二つ一つの研究活動について、内容を詳細に記録している。	研究活動についての記録が抜け落ちており、不十分である。
	計画実行力	講座の取り組み 小フィロノート	自ら計画を立て、見通しをもって実践している。研究の進捗状況に <u>沿って計画を見直し</u> 、適切に修正しながら進めている。	自ら計画を立て、実践している。自己の研究の進捗状況を把握している。	自ら計画を立て、実践することができていない。行き当たりばったりで活動をしている。
	知識・理解	講座の取り組み 小フィロノート	選択講座に関する知識・理解を超えて、 <u>自ら見直し</u> を促している。	選択講座に関する知識・理解が十分である。	選択講座に関する知識・理解が不十分である。
創造的発想力	思考・分析力	講座での様子 中間・最終発表 論文・ポスター 小フィロノート	研究テーマに対し、 <u>様々な観点に基づいて</u> 、合理的で独自の結論を導いている。	研究テーマに対し、 <u>根拠に基づいて</u> 、合理的な結論を導き出している。	研究テーマに対し、 <u>根拠に基づいた結論</u> を導き出すことができていない。
		表現力 プレゼン力	中間・最終発表 論文・ポスター	研究内容や自らの考えを、 <u>適切な表現で</u> 分かりやすく説明している。他者の発表に関心を示し、積極的に質疑に参加している。	研究内容や自らの考えを、 <u>分かりやすく</u> 説明している。他者の発表に関心を示し、質疑に参加している。

年 組 番 氏名 _____